

デブレツェン大学日本語コース

(Debreceni Egyetem Bölcsészettudományi Kar Idegennyelvi Központ Japán kurzus)

佐藤絢 (デブレツェン大学)

satoaya@arts.unideb.hu

1. 機関

デブレツェン大学

ホームページ (ハンガリー語) <https://unideb.hu/>

(英語) <https://unideb.hu/en>

ハンガリーの地方大学としては最大規模の総合大学である。学部数は14あり、キャンパスも市内に点在している。修士課程、博士課程、研究施設も充実しており、留学生の数も多い。世界の様々な大学と交流協定を結んでいるため留学の機会も得やすい。前後期制で、前期は9月上旬に、後期は2月中旬に始まる。授業期間は13週で、授業期間の終了後に試験期間に入る。

2. 日本語コースの位置付け

デブレツェン大学日本語コースは、人文学部の外国語教育センターに所属しており、自由選択科目の一つである。そのため、各学部からいろいろな専門、学年の学生がコースに通っている。これまでのハンガリー人学生対象のコースに加え、2024年2月からは外国人留学生のためのクラスも開始した。働きながらコースに通う社会人学習者も何名かいる。

外国語教育センター

ホームページ (ハンガリー語) <https://inyk.unideb.hu/>

3. レベルと学習者数 (2024 / 2025 年度前期)

・ゼロ初級 (入門レベル)	33名
・初級1 (N5レベル)	24名
・初級2 (N4レベル)	9名
・初中級 (N4からN3レベル)	4名
・中級 (N3以上)	5名
・留学生 (入門レベル)	9名

合計 84名

4. 教員と授業数

日本人教員1名が日本語コースを担当している。使用言語は、日本語とハンガリー語（ハンガリー人学生クラス）、英語（留学生クラス）である。文法の説明はハンガリー語または英語で、発音や音読練習、会話練習は日本語で行っている。どのクラスも授業は1週間に1時間（90分）である。ゼロ初級と初級1をいくつかのグループに分けるため、1学期の授業数は合計12である。

5. 沿革

デブレツェン大学で日本語教育が開始された正確な年については調査中である。JICAによる海外協力隊の派遣が始まった30年ほど前に日本語コースが作られたようである。日本から2、3年おきに日本語教師が派遣されていたが、ハンガリーが欧州連合に加盟したのを機に、海外協力隊の派遣は終了した。その後は現在の教員である佐藤が常勤講師として日本語教育を継続している。

6. 使用教材

これまで初級では、ハンガリーで出版されている『Dekiru 1』『Dekiru 2』を中心に学んできた。留学生クラスで英語解説のある『まるごと』を使い始めてからは、ハンガリー人クラスの初級にも『まるごと』を導入し、使用している。そのほか、適宜『みんなの日本語』や『げんき』も活用している。中級からは能力試験対策の教科書や読解問題集、ニュースサイトなども使っている。

7. 日本留学と卒業後の進路

デブレツェン大学からは提携のある日本の大学に留学することができる。国立大学では千葉大学、弘前大学、私立大学では城西大学、城西国際大学、東京国際大学で、留学期間は半年から1年である。過去には日本政府の奨学金を得て大学院に留学、研究した例もある。学部卒業後の進路としては、自分の専門分野での就職か、大学院への進学になる。日本語は趣味として習い続ける者、ブダペストの日本語学科へ進学する者などがある。まれに日系企業へ就職する者や、ワーキングホリデー制度を利用して来日する者もいる。

8. イベントと日本語教育

デブレツェン大学では、約3年ごとに「日本の日」という日本文化紹介・体験イベントを開催してきた。

「日本の日」は、日本語教員主導のもとハンガリー人学生と日本人学生が協力して行うもので、学生だけではなく一般の来場者も多い。近年は規模を小さくしたイベントを行っている。また、大学での多言語体験会や、博物館での日本関連の催しに参加したこともあった。書道体験会、俳句大会、アニメイベントなども定期的に開かれている。ハンガリー東部で日本のイベントを開催することはなかなか難しい。日本語教育に関しても、ブダペストより東側で日本語を教えている機関はデブレツェン大学以外にほぼないため、他教育機関とのネットワークを広げていくことが今後の目標である。

地方大学の一日本語コースではあるが、日本や日本の文化が好きで、日本語に興味を持ち熱心に学んでいる学習者が多い。これからも言語だけではなく日本の文化や習慣なども伝えていけるよう努めたい。